

松崎義邦氏メール(10月19日)

皆様に

10月8日に今年のCAVOK5の越冬地クレタ島アギオス・ニコラオスに無事到着しました。

当初の計画ではギリシャ本土ペロポネソス半島まで行く予定をしていましたが、少しゆっくり航海をすることにして手前のニコラオス港で越冬することにしました。

アマルゴス島では友人が来るのを待つのと、強風のため10日間停泊しましたが、お蔭で綺麗な海でゆっくり過ごすことが出来ました。

次のイオス島ではクノッソスのミノア文明以前に栄えたというキクラデス文明の遺跡を見学しました。この遺跡はポンペイと同じで火山灰に覆われていたので保存状態が良く貴重な遺跡になっています。

キクラデス諸島は、毎日快晴なのですが、メルテメの北風が強く吹くので、天気予報の風と睨めっこの航海でした。

イオス島からは南下のコースなので北風を十二分に受けてサントリーニ島、クレタ島には快調なセーリングを堪能しました。

クレタ島ではイラクリオンの沖合にあるデア島の入り江で錨泊しましたが、ここは無
人島で明かりもなくほぼ満月に近い月明かりの夜を夜間水泳をしたりして楽しみまし
た。

そして今年の最後の目的地ニコラオス港に入る直前にマグロ(メジ)が釣れました。地
中海で初めてのトロリングでの釣果でした。

まだまだクレタは夏でヨットの出入りも多く、海水浴場では皆さん泳いでいます。そして
此処は昨年クラッチの故障で1か月過ごしたところで懐かしくもあり、暫くクレタの晩夏
を艇の越冬準備をしながらゆっくり過ごして帰国予定しています。

お陰様で今年も安全で楽しい航海が出来ました事をお礼申し上げます。

以下写真と航海日誌を添付させていただきます。

1. イオス島の浜辺
2. イオス港
3. 女性ソロセラーと(イオス島)
4. サントリーニ島

5. イラクリオン ベネチアン港

6. アギオス・ニコラオス港

Agios Nikolaos にて

松崎義邦、悦子



航海日誌

9月19日(金) Amorgos 快晴 北北西 20~30 ノット

今日も強風だ。午前中昨日寄れなかった Mouros beaches にバイクで行く。このアモルゴス島には東西に一本メインロードがあるだけだ。そしてこの道は山頂付近がそそり立つ断崖絶壁の上を通っている。場所によっては吹き抜けの風が強く吹きハンドルがとられそうになる。上から見る海の色は綺麗で正に Big Blue 表現を変えれば Grand Blue だ。

Mouros ビーチは崖の下にある小さな砂浜で崖の上にはシーフード・タベルナが建っている。崖の下の入り江には小さな可愛い漁船が岩に舫ってあって漁師さんがタベルナに魚を届けて戻ってきていた。こちら南側は北風を山で防ぎ風が無く海水浴には絶好だ。

上からの海の色はまさにここのタベルナの店の名前と同じ Big Blue だった。隣に係留しているポーランド艇が 13 時に出港する予定だったのでお昼に戻る。横風の強いときアンカーを揚げての離岸は隣の艇にすり寄ると他艇のアンカーチェーンに絡まることがあるので難しい。風下側に CAVOK5 が係留してあるので手伝うことにしていた。

13 時前に戻りお昼に冷やし中華を頂く。ビールと合う。

結局風が強いのでポーランド艇は出港を諦めた。

ベルギー人の女性一人で乗っている 30ft 位のヨットが同じ列に係留してある。前日彼女を夕食に誘っていた。

彼女 Valeaie(バレイー)さんと 19 時頃から CAVOK5 でカクテル・ブルを飲み始める。話を聞いていると 2 年前からシングルハンドで航海を始めているそうだ。小さいころから両親とヨットに親しんでいたそうだ。可愛い女性で楽しい話が聞けた。夕食はタイ風カレーを用意したが彼女は気に入ったようでお替りをしてくれた。これからイタリア方面に向かうそうだ。

22 時前にお開きにして揺れる艇の中で眠りに就く。

9月20日(土) Amorgos 快晴 強風

今日も風が強い。出入りの艇はほとんどない。

鳥が岩陰で天気の回復を待つように、我々も港で湾内の海水浴場で運動兼ねて泳いだり町の中を散歩したりして何することなく過ごす。ここは小さな漁村だが町の坂道を上がっていくと家々の壁が白で窓枠が青、そしてプーゲンピリヤ等の美しい色の花々で飾っていて素敵な光景になっている。一番上に上がると教会が青空に突き出るように建っていた。

夕食は悦子が、胃が重いということで今晚は断食すると云うことなので、私は昨晚のタイカレーとオムレツを一人で頂いた。

9月21日(日)Amorgos 快晴 微風

今日明日と2日間風が治まる。風が治まっている間は出入りの艇を心配しないで済むのでレンタカーを借りてパナギア・コゾヴィオティッサ修道院の見学とアンナの海水浴場にバレイーさんを誘って一緒に行く。修道院は11世紀に建てられたもので荒涼とした岸壁の中腹に沿うように建てられている。崖沿いの長い石段を、汗をかきながら上がるが海からのそよ風が気持ち良く汗を引いてくれる。

修道院の中に入ると山側の壁は岩壁そのものだった。案内人が居て案内してくれる足がすくむような崖の上のバルコニーからの海の眺めは素晴らしかった。

そして帰りにはギリシャのお酒をふるまってくれた。

その後アンナの海水浴場に石段を下りて行く。今日は誰も人が居なく綺麗な静かな海でグランブルーの海を満喫する。早速泳いで潜ると海の色が底に行くにしたがって素晴らしい青になっていく。

お昼に一度艇に戻り冷やし中華を頂き一休みしてから、今度は島の西側にある海水浴場と映画グランブルーの撮影に使われたという沈船を見てから、西の泊地を見に行く。

途中山の中に現在殆ど人の住んでいない過疎になったオールドタウンを覗く。山腹には段々畑の跡があるが現在は何も栽培していなかった。

夕食は久しぶりの外食で港の前のタベルナ(Corner)でグreekサラダ、ズキーニボール、イワシのグリル、カラマリのグリルをハウスワインで食べる。イワシの丸焼きは新鮮で美味しかった。このタベルナはパイロットブックに魚が美味しいと書いてあった。

9月22日(月)Amorgos 快晴 微風

明日の午後から又強風の予報だ。今係留している場所は岸壁の波が跳ねあがり、そして横風を受けるので別の場所に移動することにする。

隣に舫っていたバレイーさんも移動するということで別の空いた場所に彼女の艇を移動さす。私が彼女の艇に乗艇してアンカー打ちの手伝いをする。一人でのアンカー打っての岸壁への槍着けは結構大変だ。

次にCAVOK5を移動さすが、アンカーを遠くに打ちすぎてチェーン(55m)がすべて出し切ってしまったので再度打ち直す。アンカーチェーンを水深の5倍以上出したいのでどうしても遠くに打ちたくなくなってしまう。CAVOK5のチェーンの長さは55mなので水深9mの所ではぎりぎりの長さになってしまう。来年は80mの長さにする予定だ。

新たな場所に係留を終わった後、バレエイさんと彼女の知り合いのアモルゴス在中のアメリカ人の男性と一緒に昼食を食べる。結局お昼は彼のおごりになり、夕食を我々がおごることになった。

昼食後彼の家を案内してくれた。港の脇の海が見える見晴らしの良い所にある。200年前の家だそうだ。彼は12年前にここにロスアンジェルスから移り住んだそうだ。石の壁の部屋はひんやりしていて窓からの風も気持ち良い。暑い所での生活にマッチした建築様式だと思う。

その後港の脇の小さな海水浴場で悦子と泳ぐ。水が綺麗で気持ち良い。

夕食はバレエイさんと彼と港の前のタベルナ(Mythos)で8時過ぎより始める。彼は肉料理が好きということで彼のお奨めのマッシュルーム入りのクリームドチキン、トルコでは食べられなかったポークチョップを赤のハウスワインで食べるがマッシュルーム入りのクリームドチキンは美味しかった。

今晚も静かな港でゆっくり休む。

9月23日(火) Amorgos 快晴 午後から西南西30ノット

今日は午後から西寄りの強風が吹く予報だ。この港の水道は時間帯で出たりでなかったりするので午前中の水の出る間に水タンクの給水と洗濯そして今夜友人が来るので布団を干す。

午前中は風も弱く気温が上がって暑かったので泳いで体を冷やす。毎日泳ぐ時間は20分程度だが毎日の日課なので健康に良いと思っている。

お昼にチキンライスを頂いた後、昼休みをしていると風が徐々に強くなってきた。周りの艇はほぼ午前中に出港していった。

午後になると次々入ってきて空いている場所に船尾着けをする。

2時過ぎより西風が強くなり港内でも33ノットを記録する。今日は強風のせい、いつもより入港する艇が多く次から次に入港してくる。係留場所は北向きなので西の横風が吹くとアンカーの打つ位置と船尾からの着岸は技術を要する。大きなモータークルーザーが当初のアンカーの位置が悪く打ちかえたがアンカーを揚げると隣の艇のチェーンと絡んでひと騒動していた。15艇位で係留場所は一杯になる。各艇の係留の仕方を見ていると勉強になった。お互いの艇の間隔を詰めて強風の中に帆走してきた艇を暖かく迎えていた。

結局午後は強風の横風の中の艇の入港ぶりを見て過ごしたが良い勉強になった。

夕食はきんぴらごぼう、ナスの味噌田楽をご飯で頂く。

友人が今晚深夜2:50にアテネからフェリーで着くのを迎えるのでお酒は控えめにした。

9月24日(水) Amorgos 快晴 北20~25ノット

早朝3時過ぎにアテネ(ピリウス港)よりハリエット(Harriet)さんが到着する。彼女は日本で我々の近所に住んでいた米国人で、今年で3回目のCAVOK5クルージング参加になる。年は私と同じだが素敵な女性だ。フェリーの桟橋はヨットを係留している場所の直ぐ脇で迎えに行く。約10時間の船の旅に拘わらず元気な姿で降りてきた。

シャンパンで再会を祝してから眠りに就く。

遅く寝たので、朝それぞれゆっくり起きて10時過ぎにいつものコーヒー、ブレッド、ヨーグルトとフルーツの朝食を済ます。

昼前にレンタカーを借りて修道院、アンナ海岸、モウロス海岸そしてカロタリツァの入江の島内案内をする。

夕方カクテル・ブルの本家本元のハリエットのブルを生ハムメロンで飲みながらゆっくりしたひと時を楽しむ。途中でバレエイさんと現地在中の米国人が参加して盛り上がる。

バレエイさんは明朝、北にあるパロス島に向け出港を予定している。我々は明日の25日か26日、風が治まるのでlos島に向かう予定だ。もう少しこの辺の島を廻りかけたが28,29日は又暴風に近い予報が出ているので、アンカーリングは諦めて安全な泊地であるlos島に行くことにした。

夕食は野菜サラダ、オレンジソースのチキンとご飯を頂く。オレンジソースの味がチキンととっても合って美味しかった。

お土産にエスプレッソの粉を頂いたので久しぶりに特製CAVOKコーヒーをふるまう。

9月25日(木)Amorgos~los (35NM) 快晴 北5~10ノット

今日は朝から風が治まっている。明後日の午後から4,5日間メルテメの強風予報なので9日間係留したアモルゴスを強風が吹く前に出てイオス島に向け出港する。

隣のアンカーと交差している可能性があるので潜って見るがはっきり見えなかったが約1m弱の間隔で平行線をチェーンが辿っていたので問題なしと判断してアンカーを揚げる。幸いに交差してなく無事上がる。

イオス島もマリーナでなく港なので係留場所が一杯になると明日からの強風の対処に困るので機帆走で7ノット以上のスピードをキープしていく。周りにはナクソス、パロス、シキノス、サントリーニの島々が見える。

幸いにイオス港に入ると係留場所が空いていて15:40に船尾着けをする。

17時過ぎにはこの係留場所は案の定一杯になった。



係留が終わってコックピットで1杯やっていると、日本語で声を掛けてきた人がいる。彼はスペイン人で流暢な日本語を話す。一緒に居た彼女は日本人で彼女に日本語を教わったそうだ。語学を学ぶのには恋人を作るのが早道の様だ。日本に1年間居たそうだがたった1年で日本語を流暢にしゃべれるとは素晴らしい。

港を散歩した後、夕暮れに新しいカクテル・ゴートを飲む。これはブル(レモン、ジン、ビール、砂糖)のジンの代わりにウオッカを入れたカクテルだがさっぱりした口当たりで海にぴったりだ。夕食はハリエットさんが作ってくれた野菜サラダと豚ヒレとナスの炒め物とズキーニ、ペッパー、マッシュルームの野菜炒めを白ワインで頂く。食後にトルキッシュデライトと CAVOK コーヒー(エスプレッソ+ミルク)を楽しむ。

9月26日(金) los 晴れ 午後から南西10~20ノット

朝隣の艇がスプリングを入れた舳いローブに代えている。理由を聞くと南西風とフェリーの出入港時の波で艇が大きく降られるとの事、CAVOK5も早速スプリング入りの舳いローブに代える。

レンタカーを借りて島内を観光することにする。ここもレンタカーが安く一日20ユーロで借りられる。アモルゴスのレンタカーはトヨタだったがここはニッサンだった。日本車はこんな小さな島でも活躍している。

今日の風はメルテメの吹く前で珍しく南西風だ。島の殆どは岩と低い草のような灌木が生えているだけで何も無い。最初に港の近くにあるミロポタスビーチに行き、そのまま島の南にあるグランプルーのロケに使われたというマンガナリビーチに行く。流石ロケ地になっただけに綺麗な海岸で砂浜が続いている。南からの風で波があったので、浜辺のレストランでランチを食べて風の影響の受けない北のセオドティ海岸に行く。夏も終わりの様で海岸には数組のカップルが居ただけだがクリスタルブルーとパンフレットに書いてあったが正にその通りできれいだった。早速泳ぐ砂浜の海岸には大理石やその他綺麗な石が転がっていたので収集する。

帰りにチョラと云う町の中心街に寄る。町並みがとっても綺麗だ。夏の騒々しさが無いのが良い。

丘の上にあるチョラの町からスカルコス遺跡が鳥瞰図のように見える。この遺跡はクレタのミノア文明より古く紀元前3000年からのキクラデス文明時代に栄えたそう
だ。その後クレタ島のミノア文明、ペロポネソス半島のミケーネ文明と続いている。
艇に戻ると艇から岸壁に渡るための梯子が上に上がっていた。隣の艇の人がフェリー
ーの波で梯子が外れたのでもとに戻してなおかつ上に揚げておいてくれた。

もう一度舳いロープを点検する。

夕暮れをブルで楽しみ夕食は今までの残り物の整理でチキンカツ、野菜炒め、豚ヒ
レ、きんぴらごぼうをご飯で頂く。

トルコ在中の稲次さんから2日後の28日は今年最大の北風(メルテム)が吹くので
気を付けるようアドバイスのメールを頂く。

夜遅く珍しく雨が降った。

9月27日(土)los 曇り一時雨 北北西10~20ノット

今日からお天気が悪くなる。午前中レンタカーでチョラに行き古代博物館に行く。イ
オス島のスカルコス遺跡が展示されている。キクラデス文明が脚光を浴びるきっかけ
の一つになった芸術的な女性の立像とキクラデス文明の遺跡を見る事が出来た。

その後ホメロスの墓石がある島の北端に行く。生憎の曇りの天気だったが丘の上
にあるお墓からはエーゲ海の島々を見渡せた。

ホメロスの叙事詩「イーリアス」「オデュッセイア」の本を買ったものの本棚にあるだ
けだがギリシャの魅力ある歴史に直に接した気分になる。

レンタカーを返して艇に戻るとにわか雨が降り始める。

お昼はスパゲティ・ポモドールを頂く。

午後はコックピットでそれぞれ読書を楽しむ。

日の暮れる前にモヒート一杯やってくつろぐ。今日は気温が大分下がったので鶏
鍋を

艇内で頂く。時折風が唸りをあげるが艇内は静かで風を感じない。久しぶりの鍋を美
味しく頂いた後、ナイトキャップのお酒を飲みながら久しぶりにトランプを楽しむ。暫
く強風が吹くのでここでゆっくりすることにした。

9月28日(日)曇り 北西20~30ノット

夜半から北風が強くなってきた。風速計の記録を見ると最大32ノット吹いていた。
港はフェリーの引き波以外は強風にも拘わらず静かで安心だ。流石シェルターとし
てAクラスの港だ。

大型フェリーは流石に運航しているが小型フェリーは運休になっていた。

ハリエットさんは町に観光に行く。悦子は艇で読書している。私も艇が心配なので艇にいる。港の中で最大34ノットの風を記録したが艇は問題なく係留できていたので、バギー車を借りて岬に海面の状況を見に行く。大きな白波が泡立っている。ただ風波なので大きなうねりが無いようだ。その中で縮帆したジブセールだけを張ったヨットが沖合を追風で帆走していた。多分沖合は50ノット以上の風が吹いていると思うが強風が吹くのが解っていないながら良く帆走するものだと思う。

los 湾に戻ると、多分その艇だと思うが入港していた。

ここに係留してあった艇は1艇も出港しなかった。

夕方ハリエットも帰って来て今日も夕暮れをハモンセラノで巻いたメロンとブルで楽しむ。綺麗な夕陽だった。

夕食はラタトゥユとジャガイモとひき肉のオープン焼きを頂く。外は寒かったので艇内での夕食になった。

夕食後はトランプを楽しむ。

9月29日(月)los 晴れ 北20~30ノット

今日も強風なのでここに停泊を決めていたので朝9時までゆっくり寝てしまう。

朝食後女性陣はチョラ(街の中心街)にショッピングに出かける。

私は明日午後から風が治まりそうなので los 島の錨泊地をバギー車で見に行く。北風が強クバギーが風に取りられそうになる。上から見る海面は白波が湧きたっている。港では20~30ノット位の風だが海上は40ノット以上の風だと思う。

南に面したマンガナリの湾は北からの風、波をブロックしているので静かだった。

マンガナリの隣の入り江のトリス クリセスには1艇錨泊していた。

艇に戻ると隣の艇が出港していた。この風での出港は我々には考えられないことだった。

そう越している内に3艇順番に入港してくる。1艇が隣に係留する。びっしょり潮を被っていた。聞いてみるとここから南になるサントリーニ島から来た。強風の中向かい風で良く来たものだ。何故こんな強風の中出港するのか分からない。

夕陽を見ながら一杯楽しむ。夕食は2010年航海を始めて以来、初めて豚カツを頂く。

良い豚ヒレがあったようで柔らかく美味しかった。

9月30日(火)los Santorini(25NM)晴れ 北15~25ノット

イオス島の綺麗な錨泊地にアンカーを打ちたかったが、未だ予報の風が20ノット出ているので、錨泊を諦めてサントリーニに向かうことにした。サントリーニはここから南になるので追風で帆走しやすい。逆に北に行く艇は風上に向かうので大変だ。長期予報を見ても南の方が暖かく風も強くないので早く南に行くことにした。

サントリーニから来た艇が電話で予約していた方が良いと教えてくれたので行く前に電話で予約した。

我々と一緒にメルテメが過ぎるのを待っていた艇も次々と出港していった。

10:00に舳いを解く。風が治まったと云っても20ノット以上吹いているのでジブとメインをリーフ(縮帆)して帆走する。それでも25ノット位吹くと9ノット近く出る。

まるで快速艇の様で気持ち良い。ただ真後ろからの風なので途中ジャイブを入れながらの帆走になった。

13時にはサントリーニの湾に入り崖の上に白くそびえ立つイア、フェラの町を見ながら昼食を頂く。久しぶりの生ハム、トマト、オニオン入りのサンドウィッチ、そしてスープだった。美味しサンドウィッチだ。

15時にサントリーニの南にあるブリカダのマリーナの前に来るが次々カタマランのヨットが出港してくる。このマリーナの入り口は浅いので全部で10艇以上のカタマランが出るのを待って入港する。水深計が一番浅い所で1.7mを指す。CAVOK5の通過できるギリギリの深さだったが何とかキールをすることもなく通過できた。

15:30にマリーナのスタッフの指示で他艇の脇に横抱きに着けて。内側の岸壁が空いているので何で横抱きかと聞いたところ中にはカタマランが入るからだと言う事だった。

このマリーナは町から離れた何にも無い所にあるのでレンタカーを借りる。イオスでは1日20€だったのがここでは35€した。高いというと8月は70€だったという。イオスと違ってここは人気のある観光地だからと言い訳を言っていた。

島の西端から見る夕陽が美しいので早速見に行く。既に数十名見に来て夕陽が沈むのを待っていた。

水平線に太陽が沈むのを見ていると15世紀の大航海時代にポルトガルの航海王子エンリケ達がクロノメターを発明して太陽の位置で経度を測定出来る様になった時代を思い浮かべる。

帰ってからここはシャワーが無いので艇で浴びて、夕食にサラダとチキンタイカレーを頂く。

明日は横抱きしている艇が早く出るということなので早起きして艇の入れかえをしなくてはならない。

久しぶりの帆走で心地良く眠れそうだ。

10月1日(水) Santorini 快晴 北10~20ノット

横抱きさせてもらっている艇が朝7時に出るということなので6時半に起きて艇を前方に係留してあるモータークルーザーに取りあえず横抱きにする。日出は7時なので未だ6時半は薄明だ。艇が出た後狭い中に入れるので注意しながら悦子に岸壁に降

りてもらい長いロープで艇を結んで徐々にずらしながら係留する。後方でやはり横抱きをしている艇の人が手伝ってくれた。

朝食後今まで行けなかったアクロテイリ遺跡に行く。紀元前 1500 年頃の大噴火によって突然歴史の舞台から消えたがポンペイと同じで深い火山灰に覆われたのが助けになり先史時代の遺跡としては 1 番保存状態が良いものとされている。今までの遺跡は殆ど雨ざらしだがここは大きな遺跡の敷地を立派な建物で保護している理由が分かった。

その後フィラの町に行き観光する。遅いお昼をフィラから離れたピルゴスの近くにある今回で 3 回目になるタベルナ・メタウに行く。ここも我々の事を覚えていてくれ嬉しくなる。オレンジソースのポークステーキ、ラムのヨーグルトソース、ポークのデミグラスソース、ナスのトマトソースとチーズの入ったキャセロール、熟成したバルサミコソースのサラダを食べるがいずれも美味しかった。

ただしお腹が一杯で食べ切れず持ち帰りした。

食事の前にラキをショットグラス、そして食後はアイスクリームが載ったチョコレートケーキを甘いデザートワインでサービスしてくれた。これでビールを飲んで 47€ と嬉しくなる。

食後は再度フィラの町に戻り、今度は町の一番上から下に降りる。途中岩壁の上に建つレストランで景色を見ながら心地よい風を浴びてコーヒーを飲む。

港に帰ると丁度夕陽が西の空に沈む時で空の色のグラデュレーションが綺麗だった。

お昼遅く一杯食べたのでお腹が皆さん減らず、夕食なしで味噌汁だけ飲んでナイトキャップして寝る。

10月2日(木) Santorini(快晴)北15~20ノット

今日は昨日見学したアクロテイリ遺跡を展示してある新先史時代博物館に行く。

アクロテイリ遺跡は古代ギリシャ哲学者プラトンが伝える「一夜で沈んだ高度の文明」アトランティス大陸の伝説のモデルではないかと云うことで有名である。貴重な壁画が残されており「ボクシングをする少年」や「漁師」がアテネ博物館に展示されているが、その色彩に当時の文明の高さが分かる。

博物館にはその他の壁画や陶器が飾られている。紀元前17世紀に花開いたキラデス文明はクレタのミノア文明の前なので壺のデザインもクノッソスとは違い興味深かった。

その後イアの町に行き観光する。白一色に青の色が少し入る色彩の美しい町だ。そして町から見下ろす噴火湾も素晴らしい。軒を並べてあるお店で女性陣はショッピングに熱中する。

遅いお昼をイアの町の岩壁の下にある小さな船着き場にあるアモウデイのタベルナに食べに行く。タベルナの美人の店員さんが私の事を覚えていてくれ歓迎してくれた。

ヒメジに似た魚のグリル、ムール貝とサラダを食べる。魚はやはり日本だった。

帰りに前日道に迷って偶然通った村が美しいギリシャの町並みだったのでそこによる。

Traditional village の表示があった。ワイナリーを見つけたので寄ってみる。クレタ独特の気候の中で育つブドウは強風のため背が低い、そして雨が降らないので海面から上昇してくる霧で水分補給をしているので独特のワインが出来るそうだ。白を1本買って帰る。

艇に戻り夕食はハモンセラーノとメロン、タイカレーを頂く。

明日は60NM 南のクレタ島に行く予定だが風が少し強そうなので天気をあれこれ調べる。結局取りあえず朝6時起き6時半出港と云うことにして就寝する。

10月3日(金) Santorini Crete (Iraklion) 60NM 晴れ 北 15~20 ノット

朝6時に起きるが風のゴーと云う音が聞こえる。6時は未だ暗いので明るくなって海面を見てから今日の出港の判断をすることにした。日出は7時14分だが7時前に明るくなったので海面を見ると白波も立っていないので7:20に舳いを解く。この港は砂の堆積が強く出るときに軽くオンサンドしてしまった。

風は追っ手の北風で当初はリーフして帆走したが、これ以上風も強くなりそうもないのでフルセールにして平均7ノットで快調に南下する。

クレタに近づいてから、風も12,3ノットの風に弱まった。

大きな商業港の奥にベネチアン港があるがそこは一杯なので外側の岸壁に着けようとしていると、アモルゴスで会ったヨットの人が着ける場所を教えてくれた。彼らの一人はこのベネチアン港に艇を置いてあってこのベテランだった。舳ってからお礼を言うと、何でも分からないことがあったら相談してくれとの事だった。海の男は親切だ。

私が舳いの整理、電気をつなぎ等やっている間に女性陣は町に明日の観光の調べに行く。

ベネチアの要塞を見ながらブルを楽しんだ後、艇内で夕食を頂く。野菜サラダ、オムレツ、ポテトサラダを美味しく頂いた。

10月4日(土) Iraklion 晴れ 北10~15ノット

イラクリオンを観光する。乗り降り自由のバスでクノッス宮殿に行く。これで三回目のクノッスになる。

その後クノッソスの遺跡からの出土したクレタ(ミノア)文明の出土品が展示されている考古学博物館に行く。前回は改装中で一部の展示しか見る事が出来なかったが立派な博物館になり素晴らしい出土品を多数見る事が出来た。殆どミノア文明の出土品だが、ローマ時代の出土品もあるがローマ時代が現代のように感じてしまうミノア文明だった。

お昼すぎに博物館に入ったが見るのに時間がたっぷり必要でお昼は博物館のコーヒーショップでサンドウィッチを食べて済ます。

夕方艇に給水したかったが上手く行かず近くの艇に聞くと親切に彼らの給水口を提供してくれた。そして明日行く予定をしているレシムノンの情報も教えてくれた。助かる。

いつものようにコックピットでブルとおつまみで楽しんだ後、夕食はロールキャベツを頂く。スープがとても美味しかった。

10月5日(日)Iraklion ~ Rethimno(35NM) 曇り後晴れ 微風

朝マリーナポリスで支払いを済ますが1日10€との事、去年は27€だったのに係りの人によって違ったみたいだ。但し別の所の管理だが電気代が2日で15€も取られた。いずれにしても安いので助かる。

08:50に舳いを解く。風が弱く暫く機帆走にするが少し風が強くなってきたところでエンジンを切るが30分後にはその風も治ってしまい再度機帆走する。

珍しく全天を覆うような曇り空だったが午後には晴れ間が出てきて夕方には快晴になった。

レシムノのマリーナはあまり管理されていないということで心配していたが幸い岸壁側が空いていてそこに横着けが出来た。狭い場所に入れるので苦労していたらポンツーンに着けているヨットマンが舳いを取ってくれて助かる。15:00に舳う

レシムノはビザンチン時代に栄えた町で港には立派な要塞があるがオスマントルコに1600年に陥落された。

旧市街地を散策して雰囲気のある店でビールを飲んで喉を潤す。

明日はサマリア渓谷に行く予定なので旅行エージェントで明日のツアーの予約をする。

夕食は鶏のポトフの予定だったがスーパーマーケットに鶏肉がなくソーセージのポトフになる。それとタルキッシュオムレツを白ワインで頂く。ポトフのスープが美味であった。

明日6:30のバスで出発なので早く寝る。

10月6日(月)Rethimno 晴れ

朝 6:30 に港の前に観光バスが迎えに来る。あちこちの集合場所でツアー客を集めてサマリア渓谷ツアーの出発点になるクロスカル(XYLOSKALO)迄 2 時間半で行く。サマリア渓谷のツアーは渓谷の上流地点からクレタ島の南側の海まで約 16 km も歩く。渓谷の一番狭い所は幅 3m で高さは 300m あった。地中海は氷河が無かったそうで水の流れて削られて出来た渓谷だそうだ。自然の力の偉大さにはいつも感銘する。下りで楽なハイキングと書いてあったが石がごろごろして歩きづらく結構時間がかかり 9 時半に歩き出して渓谷の出口に着いたのが 16 時になっていた。7 時間の行程になった。歩数は 3 万 7 千歩歩いたことになる。

出口から暫く歩いて船着き場のアギア・ルーメル着くがここは陸上からの道が無くフェリーだけが交通手段になっている。その中でいくつかのホテルと海水浴場があった。

17 時発のフェリーに約 1 時間半乗ってスファキア(Sfakion)に行きそこからバスでレシムノンに帰った。南岸クレタは航海してないので興味深く岸を見たが殆ど断崖絶壁でフェリーの発着港以外は寄れるところは無かった。

レシムノに着いたのは 20 時過ぎになり、疲れたのでタベルナでギロピタ(焼いた肉のそぎ落としと野菜をピタで包んだもの)、ハンバーガーとグreek サラダを持ち帰りして艇で食べる。

心地よい疲れの中、シャワーを浴びて眠りに就く。

10 月 7 日(火) Rethymno ~ Dia (34NM) 快晴 西 10 ~ 15 ノット

今日はクレタ島の南 6 NM 沖にある Dia 島に行く。パイロットブックにも少しの記述しかないが、クレタ島を良く知っている人が静かでクリスタルの海で良いと教えてくれた。

レシムノのマリーナの施設はしっかり出来ているがその後の管理がきちんとされていない。イラクリオンと同様に管理はポリスで国の管理だ。トルコとは大違いでトルコは私营、施設サービスはギリシャと比べ物にならないほどしっかりしている。但し係留料は大違いで断然ギリシャが安い。

手続きを管理事務所でする。ここも電気代、水道代は別料金で取られたが一日 23€ だった。

朝食後 09:50 に舳いを解く。風は当初北北西の 10 ~ 15 ノット近い風が吹き斜め後ろの風で 7 ノットの速度で快調に帆走する。昼前に風が落ちてきたので機帆走で 7 ノットをキープする。久しぶりに暑い日中になり、そして風が後ろからのせいもあり暑く裸になる。

ディア島には 2 つの泊地があり最初島の西にある泊地をみる。1 艇錨泊していた。次に 2 つ目の泊地に行く。ここはお奨めの所で係留用のブイもあるとの事で錨泊を予定していた。

幸いに1艇だけアンカーを打って停泊しているだけだった。係留ブイらしきものがあったので我々はそこに15:10に舫う。心配なので潜って見に行ったがしっかりとアンカーされているブイだった。

水が綺麗で8mの底が艇の上からきれいに見える。

久しぶりに3人で泳ぐ。

周りは岩だけに囲まれた入り江で、何も無い。明日満月なので人家も明かりもない入り江で月の鑑賞を楽しむ予定だ。

泳いだ後遅いお昼に胡麻たれのお蕎麦を頂く。すきっ腹にビールと共に美味しい。

その後2艇程入り江に入ってきてアンカーを打った。

夕食は豚肉の野菜炒めとご飯を頂く。

東の岩山から月が上って来た。そのうち海面を照らす。水温を図ると24度あるので月夜の晩に全員自然な姿になり泳ぐ。海水も冷たくなく月夜を見ながら気持ち良く泳いだ。

そして静かな月夜を、グラスを傾けながら楽しんだ。MNSCの2回目の会合であった。

10月8日(水) Dia ~ Agios·Nikolaos (40NM) 晴れ後曇り 北北西 10~25ノット

素晴らしい泊地なのでもう一泊したかったが、天気予報で明日の午後から風が徐々に強くなるのと曇りの予報だったので残念だったがブイから舫いを解く。

そして今年の航海の最終レグだ。

入り江から出ると北北西の10ノット前後の良い風が吹いていて即帆走に移る。

斜め後ろからの風を受けて6~7ノットの速度で帆走する。2時間ほどすると若干風が落ちてきたのでジェネカーを揚げるが同時に風も出てきて10~15ノットの風の中7~8ノットの速度で波のない海面を気持ち良く帆走する。お昼はソーメンを頂く。

風が強くなったので引き釣りのロッドを揚げるとメジマグロが掛かっていた。地中海に入って初めての漁獲がメジマグロであった。



ニコラウスの手前10NM位から風が15ノット超える様になったのでジェネカーを降ろす。岬を越えてニコラウス方面に廻り込むと岬からの吹き下ろしの30ノット近いブローにあった。

オートパイロットでは切りあがってしまうのでマニュアルで操縦する。

風が強いこともあり、ニコラウスのマリーナには電話で到着の旨を伝える。港に入ると入り口の防波堤にスタッフが待っていてくれ係留場所を指示してくれた。

20ノット近い風が吹いている中我々だけでポンツーンに槍着けするのは結構難しいが、取りあえず岸壁に横着けになり、スタッフが岸壁で舳れを取ってくれたので助かった。

久しぶりにマリーナのシャワーを浴びる。十分にお湯が使えるので気持ち良い。

夕方になると雲が無くなり満月が明るい。いつものように食事前にブルで一杯楽しむ。

夕食はハリエットさんが豚カツを見習いで作り、今日釣れたメジマグロをお刺身にして食べた。新鮮だったが脂の乗りが今一つだった。

食後はコックピットで満月を楽しんだ。

今年も無事に航海が終わりホットした夜だった。

10月9日(木) Agios Nikolaos 快晴

朝起きると少し風が治まっていた。今日も強風の予報なので午前中早めに岸壁からポンツーンに移すことにする。ポンツーンの指定場所を聞いてからスタッフに舳れを取ってもらうようお願いして艇を移動さす。

移動時手伝ってくれたここに係留している英国人のデビットさんをお昼に呼んでビールを飲む。

ここで暫く係留して帰国前に上架することにする。

午後隣の海水浴場で泳いだ後町を散策する。

夕食はほうれん草の胡麻和え、鶏とキノコのグリルと昨日の獲物のメジマグロの刺身を頂く。満月を見ながら一杯やって寝る。相変わらず風は強い。

10月10日(金) Agios Nikolaos 晴れ

午前中悦子とハリエットはショッピングへ。私はレンタカーを借りに行く2日借りると3日目はフリーと云うことで三日間借りる。1日辺り23€だった。

デビットさんとここから近いスピナロンガにある船具のチャンドラーに行く。色々なものが揃っていて便利だ。

午後戻ってからクノッソスと同じ時代に栄えたファイストスの遺跡を見に行く。

クノッソスと違いほぼ原形の遺跡だった。行き帰りで5時間を有したので艇に戻ったのは19時近くなった。直ぐシャワーを浴びてブルで風呂上がりの一杯をやる。

夕食はこのマリーナがプレゼントしてくれた白ワインで蒸し鶏、トマトときよりのサラダと残り物を頂く。残り物でもメジマグロの漬けは美味しかった。

月が徐々にかけてきた。

10月11日(土) Agios Nikolaos

今日はクレタの東側に行く。マクロス(Mochlos)の遺跡のある島の前のタベルナ Bogazi にお昼に寄る。店の人達が覚えていてくれ歓迎してくれる。フィッシュ・スープを食べるが白身の魚とジャガイモを主とした野菜が入っていてとても美味しかった。二人分頼んだのだがそれでも多く持ち帰りにしてもらった。最後と云うことでハリエツさんがご馳走してくれた。その後東端にある海水浴場 Vai に行く。

砂浜の綺麗な海水の海水浴場だったが着いたのが4時過ぎでハリエツと悦子は泳がず私だけが泳ぐ。

昨日に続きロングドライブになり戻ったのが7時過ぎになった。

シャワーを浴びてブルで乾杯、ハリエツさんの最後の夜になる。ブルをいつもの倍作ってくれる。楽しかった一緒に航海の思い出話をしながら飲む。

夕食は持ち帰りのフィッシュ・スープでリゾットを作ったが非常に美味しいリゾットが出来た。

食後はハリエツと最後のブラックジャックを楽しんで遅く眠りに就く。

10月12日(日) Agios Nikolaos 晴れ 北5~10

やっと風が治まったという感じだ。

ハリエツさんが帰る日だ。近くにある Kritsa 村に観光に行く。ここは去年も行ったが奥さんが日本人の土産物屋さんがありそこに寄る。その後 Spinalonga にドライブしてニコラウスに戻り海水浴場の前のタベルナで昼食をとる。

ハリエツさんと御嬢さんのケイトさんにTシャツのプレゼントをする。

15時前に車で空港送る。

艇に戻ってからロープの塩出しをする。明日から越冬の準備だ。

ポンツーンを歩いているとデビットさんがビールを飲みに行こうと誘ってくれた。

マリーナを見渡せるシロッコと云うバーでビールをご馳走になる。ハンデーの無線機の充電が出来ない話をしていたら昔電気技師だったということで明日見に来てくれることになった。

夕食は卵丼を味噌汁で頂く。久しぶりの二人の食事になる。

10月13日(月) Agios Nikolaos 晴れ 北微風

艇の片づけに入る。洗濯物をコインランドリーでしたりロープ類の塩出し、マリーナ事務所で乗架の手続き等をする。

お昼にラーメンを頂き夕方に海水浴をする。
夕食にイワシの酢締めとツナで手巻き寿司をして頂く。

10月14日(火) Agios Nikolaos 晴れ 北微風

今日はジブセールを降ろしてほころびの修理と収納をする。ギャングウェイの取り付けが壊れているので善後策を考える。汗をかいたので隣の海水浴場で泳いで涼む。

お昼にソーメンを頂く。22日ここを出発するまでのんびり過ごすことにしているので仕事はお昼迄とする。

昼食後コックピットで本を読んでいる内にうたた寝を楽しむ。

その後海水浴に行く。

夕食は昨年行ったことのあるサリーさん(ご主人安田さん)が働いていたイタリアンレストラン・エストラダに行く。残念なことに安田夫妻は冬に英国に帰っていた。

イタリアンサラダ、フォカッチャ、パルマハム、クアトロペンネ、ピザマルゲリータを赤ワインで食べる。フォカッチャは残ったので持ち帰りした。